

「思いを伝える」

校長 齋藤 滋

「モグラくんがみた おひさま」という絵本の最後のページには

モグラは目がみえません。

でも、こうして 日の出をみることができました。

このころの目にみえたのです。

それはそれはうつくしい、すばらしい日の出でした。

とありました。

この絵本を読んだことがある方も多いかもしれませんが、私は最近この本と出会いました。

ラジオから聴こえてきたこの本の紹介の声、実は私が中高生のころよく聴いていたラジオから聴こえてきた声と同じでした。その声の主への懐かしい思いと同時に、この絵本の紹介に引き込まれる自分がいました。

目が見えないモグラはどうやって日の出を見たのか。心の目で日の出を見たと思いますがそれができたのでしよう。

ハタネズミと日の出を見に行くところから始まりまず。ハタネズミはモグラの手をとって歩きます。木の根っこが道に出ているときは気をつけるように声をかけ、目的地に着くと先に来ていた他の動物たちと一緒に座って日の出を待ちます。お日様が少しずつ顔を見せるとそれを目玉焼きに、輝く太陽は金ボタンに、ふわふわした雲は横にいる鳥の羽に例えて話します。ですからお日様を見ることができないモグラにも、それがとてもきれいであることがよく分かるのです。

なんと心温まる素敵なお話でしょう。

私たちの日々の暮らしの中にもこういうことってたくさんあるように思います。人に思いを伝える、自分の目に入ってくる素敵な光景を言葉にしてみるということがどんなに素晴らしいことかを改めて考えさせられました。さて、昨年の二月に起きた中学校一年生の殺害事件から一年が経過しました。残念ながらその後もしじめ、暴行、虐待事件は後を絶ちません。事件が起きる度に考え

させられることは多いのですが、時間の経過とともに大切なことを忘れてしまいそうになります。

新聞では、その事件が起きたときに、「次は自分がそうされるかもしれない」と不安に思う少年がいたこと。また、「親に言っても、どうせ・・・」「自分で分かっていることを注意されてもむかつかだけ」というような子どもたちが非行に走ってしまい悩み続けた母親は「本人が自ら立ち直ることを信じて価値観や態度を受け入れたことで、家庭内では落ち着いて話ができるようになった」と語っていたことも印象的でした。

様々な悩みを持つ子どもたちが目の前にいます。大人が「こんな成績じゃ中学校に行けないぞ」と言ったりしましょう。大人は叱咤激励の気持ちで発した一言だったかもしれませんが。子どもはその通りに受け取るでしょうか。「よし、がんばろう」と思える子どもいれば「自分はもうだめかもいけない」と思いさらに不安な気持ちを強くしてしまう子どももいます。

子どもを受け入れるって難しいのは分かりますが、でもそれができない状況で子どものためと考えて何かを用意しても、そこには子どもの「こころ」は無いかもしれません。

## 「携帯電話の役割」

教頭 馬場 淳

ある日の午後、近所の公園の横を通りかかったとき、一人の男の子が携帯電話で電話をしていました。「お母さん、公園で遊んでいたら靴が泥だらけになったんですけど、このまま電車に乗っても大丈夫かな。」当日は早朝まで雨が降り、公園にはいたるところに水たまりができていました。男の子はサッカーのユニフォームを着ていたので、おそらく習い事の帰りに公園に寄って遊んでいたのでしょう。お母さんからよいアドバイスをも

らったのか、男の子の不安は簡単に解消されたようです。十数秒後には「ねえ、ジュース買っていい？」と話題が変わっていました。

私は「この格好だと電車を汚してしまうかもしれない」と考えた男の子の公共のマナーに対する意識の高さに感心しつつ、携帯電話がない時代だったらこの子はどうしたのだろうか、ふと考えました。

公園の水道で足や靴を洗う、駅員さんや習い事のコーチに相談する、申し訳ないと思いつつも車両の隅のほうに乗る、きつと様々なことを頭に思い描き、不安を抱きながら自分なりの正解を探すのでしょうか。このような経験は子どもたちの成長の糧になるとは思いますが、私たち大人が意識的に、子どもたちにそのような経験をさせる機会を設けるのは、なかなか勇気のいることです。

本校の携帯電話所持希望届の提出率は年々増加し、今年度は約七十四%となりました。子どもたちの安全や安心のために携帯電話を持たせたいと思うご家庭の考えは、十分に理解できます。携帯電話を持たせておけば、例え待ち合わせに五分遅れてしまっても連絡を取ることができるのだから、待っている子どもにも不安な思いをさせることはないでしょう。携帯電話は様々な場面で、私たちの不安や不便な思いを解消してくれています。

しかし、携帯電話は便利なものですが、もしかしら子どもたちの成長の機会を奪うことにもなっているかもしれません。また、携帯電話を持つていたとしても、必ずしも安全が保障されるわけではありません。災害時には携帯電話は繋がらないこともあります。やはり大切なのは、子どもが自分で考え、判断し、行動できるように育てることであり、そのことこそ、本当の意味で子どもたちの安全を守ることにつながるのだと思います。どんなに便利な世の中になったとしても、子どもたちの健やかな成長を促し、本質的な力を育てることを大切にしていきたいと思えます。

# 平成二十七年年度 各学級 一年間の振り返り

今年度の初めての学校だよりで各学年の目標を紹介しました。今回は、一年間を振り返り、これまでの成果をご報告致します。

## ★一年一組★

一年間の目標として、「自信を持って取り組む」「相手のことを認める」「心のゆとりを持つ」の三点を掲げました。入学して間もない頃は、初めてのことが多く、戸惑いを感じている様子が見られましたが、今では人前で堂々と話をしたり、新しい活動に対して前向きに挑戦したりすることができるようになりました。また、自分のことより友だちのことを優先させて行動する姿を目にする機会も増え、自分のことだけで精一杯だった入学当初と比べると、一年生なりに心のゆとりが持てるようになったことを感じます。これまでの子どもたちの成長は、クラス三十五人の子どもたちが互いに切磋琢磨し合ったことによつて培ってきたものでしょう。四月からは、新一年生を迎えることで、相手のことを認める心をさらに養っていきけるようになることを期待しています。(中村良子)

## ★一年二組★

三十五人の子どもたちが、一年二組の教室に集まり、新しいスタートを迎えてから、もうすぐ一年が経とうとしています。四月の始め、新しい環境や友だちと、多く関わることで、この一年間で一人との関わりを大切にできる子に育ってほしいと願っています。目標を立てました。この一年は、友だちとぶつかり合うこともあれば、慣れない環境で不安に思うこともあったと思います。しかし、一

つひとつの経験を糧とし、人と関わることへの喜びや嬉しさを感じることができるようにして成長したと思います。帰りの会での「クラスや友だちのよいところ発表」では、今でも多くの子が挙手をしています。発表した子だけでなく、発表を聞いている子たちにも笑顔が溢れる様子は、クラスを温かい気持ちにさせてくれる機会となっております。これからも、人との関わりの中から多くのことを学び、周りの人を大切にしていきける子たちであってほしいと思います。(尾崎成美)

## ★二年一組★

一年間を通して、子どもたちは「自ら正しいことを進んでやる」という一人ひとりの意識と、「思いやりをもつて人と関わる」という友だちとのつながりの意識の両方を高めてきました。授業や休み時間、また係活動や掃除の中で、友だちの「素敵だな」「周りの人のことを考えているな」と思う行動を見て発表したり、自分がかけてもらって嬉しい気持ちになった言葉や、手伝ってもらったことなどを話し合ったりする中で、自分にもできることを考えていきました。これからは「今、自分でできること」をしつかりと考えて行動したり、友だちの気持ちを考えて行動したりすることを大切に、学校生活を送ってほしいと考えています。(大木葉々絵)

## ★二年二組★

言葉を大切にできる学級を目指し、「ほめ言葉のシャワー」を中心としたいくつかの活動を行ってきました。年に三回、全員にほめられる機会がありました。出てきたほめ言葉の数は一年間で約四千にのびりました。自分が意識して行ったよさだけでなく、気づいてないよさをほめられることもあり、その都度、ほめられる子の頬が緩んでいく様子が見られました。また、ほめる側の観察力や表現力、思考力の向上も見られました。回数を重ねるこ

とに、意識しないと気づかないような部分を取り上げてほめたり、それまでに他の子が使っていない言葉で表現したりするなど、その場で伝えたい思いをまとめて話す姿に、大きな成長を感じました。この一年間で、相手を意識して話す・聴くことの大切さを学べたように思います。(佐藤浩太郎)

## ★三年一組★

この一年間、「互いのよさに目を向けながら認め合える学級」を目指し、学校生活の様々な場面で互いを理解し合い、よりよいクラスを築くために今何ができるのかを考えながら、自ら進んで行動できるよう指導してきました。現在は、一日のリーダーとなる日直や班長などを中心に子どもたち同士が声を掛け合いながら行動できることも増え、学級会や班会議では友だちの意見に耳を傾けながら活発に意見を交わす様子を見ることができ、様々な場面で成長を感じています。また、休み時間には係活動やお楽しみ会の企画に向けて協力して準備を進めるなど、みんなが楽しい時間を作ろうと自主的に活動する姿勢も身についてきました。今後もそうした取り組みを大切に、やりたいことを仲間と共に実現していく成功体験を積み重ねていきながらそれぞれの自主性や自治力を高め、クラス全体が成長していけるように温かく見守っていききたいです。(鈴木健太郎)

## ★三年二組★

今、クラスでは「安心」して過ごせる環境が少しずつ整ってきているように感じています。朝や帰りの会でのみんなからの発表では、困ったことや直したいことについての意見が挙がることもあります。誰かが困っているればみんなが助け合うべきだという子どもたちの温かい気持ち、一つひとつの問題を解決に導いてきました。ルールやマナーの面でも、自分たちで正しい判断をして動けるこ

とも増えてきました。また、自分たちで声をかけあって正しい行動をしようと努力する姿も見られます。その時について強い言葉かけになってしまふことがある点については今後の課題でもありますが、この一年を通して子どもたちは立派な三年生になれたのではないかと思えます。(石井香菜子)

### ★四年一組★

教室の後ろに掲示してある目標カードを定期的に見直すことで、個人の頑張りや成長を感じると共に、改めて頑張りたいことを再認識するなど、自分なりに目標を持って過ごすことが増えました。また、子どもたち自身が「自分で考えて行動する」場面が増えたことに成長を感じています。その中でも、「時間」に対する意識は特に高く、時間にゆとりを持って行動し、よい雰囲気を作って他も授業などに臨むことができていました。他にもよりよいと思うことを提案したり、学級会を通して現在のクラスとしての課題点に対し、解決策を考え、自分たちで取り組んだりしていました。友だちと声をかけ合いながら目標に向かって過ごす中で、クラスとしての変化や成長を実感できたようです。(小山内杏実)

### ★四年二組★

一年間、「一人ひとりが考えて行動できる学級」を目標意識して生活してきてきました。この目標を意識して生活していく中で、相手の立場に立った考えや行動が目立つようになりしました。特に運動会の四人五脚では「速く走りたい」という目的に相手に対する思いやりの精神が加わったことで、どの子ども練習に対して前向きだったと感じます。その練習の成果はタイムの数字となって現れ、「やればできる」とクラスで感じた瞬間でした。それからは、新しい事に挑戦する子が多くなり、それを支援する友だちも増えました。今までできなかったことができるようになった

った感動、そして友だちの成長を発見した時の感動も味わうことができました。五年生になっても、こうしたお互いを高め合う雰囲気大切にしたいと思えます。(蒲谷誠一)

### ★五年一組★

「互いに認め合うあたかいクラス」というのを学級経営の大きな柱と考えて一年間の生活を送ってきました。改めて感じたことは、クラスの子どもたちが人の個性や価値観というものを受け入れる広い心を持っているということでした。教室の中で、友だちどうしが安心して発言したり、好きなことができたりします。授業でのグループ活動でほとんど揉め事が起きないのはこのクラスの特徴のひとつです。一人ひとりの考えの違いを理解し、ときには譲ったり、我慢したりすることがありながらも、友だちと協調することを大切にしているように感じます。人間関係で悩みを持ちやすい難しい年頃を迎えている子どもたちですが、このような優しい心根を持つていることは、子どもたちの成長の大きな土台となることと思えます。(福富直史)

### ★五年二組★

一人では出来なかつたことも、友だちと一緒にだとなげられる。仲間の力をプラスに変えることができる。五年二組は、毎日がこんな教室です。個性豊かな三十五名の子どもたちが楽しく学んだ一年間でした。友だちの作品に感心した子が、授業の後に「上手かったよ」と伝えたそうです。そのひと言が、友だちの自信につながりました。また、六年生からも多くのことを学びました。音楽集会や発表会での美しい歌声、迫力のある演奏は、来年の自分たちの目標です。もうすぐ最上級生です。「いいな！」「こんな風になりたいな！」そう感じられる素直な心を大切にしたい。これからも互いに認め合い、

高め合っていていける学級でありたいと思えます。(猪狩裕亮)

### ★六年一組★

子どもたちは、年度初めに立てた学級目標を意識しながら一年間を過ごしてきました。慣れに伴って意識の低下が見られ、指導を受けることもありました。大きな場面ではきちんと意識できていたことが多かつたように思えます。慣れが生じた原因として、クラスの仲間が自然体で付き合えるようになってきたということもあるのですが、そのような変化はうれいしいものです。もちろん、慣れから失敗を招くこともありました。そうした失敗の一つひとつが子どもたちの大事な経験になったことでしょう。年度の途中では、「コミュニケーション力」という課題も見えてきました。そうした新たな課題にも、クラスとして向き合ってきた一年間だったと思えます。(浅利直樹)

### ★六年二組★

「凡事徹底」「頼られる人になろう」「よい伝統をつくらう」の三つがクラス目標でした。「凡事徹底」については、自律できずにいたこともありました。掃除をしつかりすることを守ると当たり前にできてほしいことへの意識は格段に高くなつたと感じています。「頼られる人になろう」では、委員会やクラブなどで六年生が頑張ってくれていくという話を多く聞くことができました。下級生との関わりの中で頼もしい姿を多く見せてくれた一年だったように感じます。「よい伝統をつくらう」は、これから下級生が結果を見せてくれるはず。今後の下級生の活躍に期待したいです。この一年で一言では表せないぐらい成長しました。この経験を中学へ進学しても多岐に渡りいかしてもらいたい。(新井航)

# 活動◇紹介

日頃の様々な活動において、実際の実践を厳選し、そこでの様子や指導のねらいなどをご紹介します。

## ダンスダンスダンス

ダンスダンスダンスが開催されるようになってから、13年が経ちました。踊ることの大好きだった子どもたちが校長先生に「ダンスをみんなに披露できる場をください」とお願いに行き、第1回目が始まりました。開催するのは大体1月から2月にかけてですが、新年度が始まると同時に「今年はいつやりますか」と毎年多くの子達から質問を受けます。そして、まだ汗ばむような時期から、休み時間に練習に励んでいる姿を見かけます。13年間も継続しているのは、こういった子どもたちの意欲の高さが受け継がれているからなのだと毎年感じています。

今年は15組のグループが出場しました。選曲や振りつけ、衣装からそれぞれの思いが込められていることが伝わってきました。また、男子グループや男女混合のグループもあり、会場が大いに盛り上がりました。来年の発表も今から楽しみにしています。

(青木麻理)

## ゆるキャラグランプリ

2月16日に行われた全校集会で、第1回桐光ゆるキャラグランプリが行われました。昨年11月に全校児童から桐光のよさが伝わるゆるいキャラクターを募集したところ、108作品の応募があり、その中から集会委員で30作品に絞り、そこから全校児童での投票でグランプリを決めました。どのゆるキャラも力作で、集会委員の子たちと応募された作品を見ていると、学校のよさに関して新たに発見することもあり、一つひとつに目を向けるのが楽しかったです。

全校集会で発表された作品は上位10作品だけでしたが、一つひとつ発表されるたびに作者のクラスメイトからは喜びの歓声が、他のクラスの人たちからは祝福の拍手が上がり、とても温かい空気が流れていました。また、その作者はその場で集会委員からインタビューを受け、気持ちを全校児童に伝えていきました。3位・2位に選ばれた人はステージ上でのインタビューに加え、ほぼ等身大となったそのゆるキャラのイラストが贈られ、グランプリの作者は集会委員が作成した「もち丸」をその場で着てもらいました。これから3位までに選ばれたゆるキャラたちにはたくさん活躍してもらいたいと思っています。

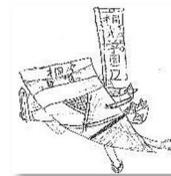
(新井航)



一位  
もち丸



二位  
桐光生徒



三位  
桐光ダンサー

## 旭日小綬章受章

このたび平成27年度秋の叙勲に際し、本学園理事長小塚良雄が、神奈川県公安委員長としての功により旭日小綬章を受章いたしました。小塚理事長は平成15年3月に神奈川県知事より神奈川県公安委員に任命され、3期9年の任期中に公安委員長を2期務めておりました。

